

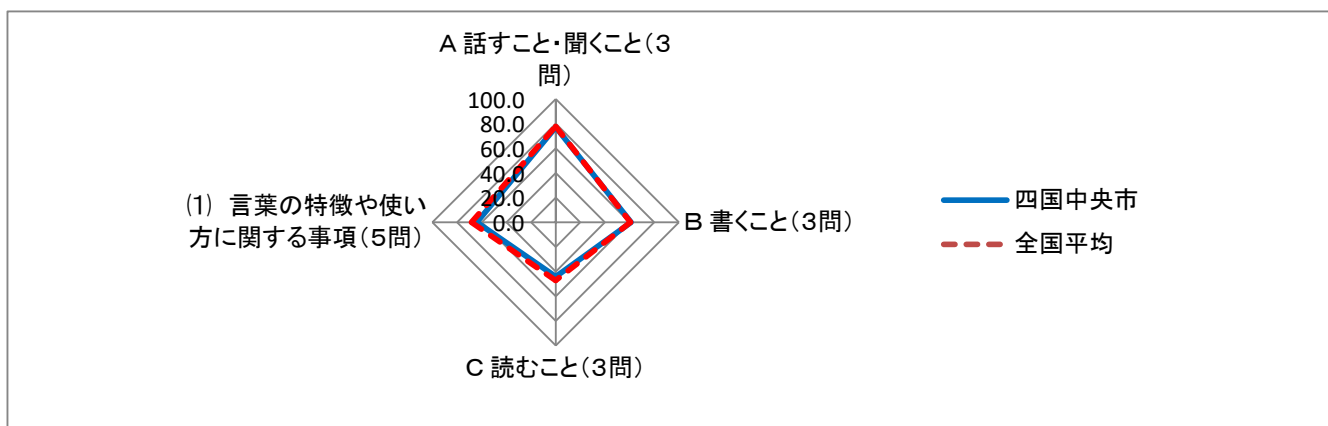
令和3年度全国学力学習状況調査の結果について四国中央市の小学生の状況についてお知らせします。

1 学力の状況

レーダーチャートは、各領域における正答率を示しています。項目の後の()内の数字は、対象問題数を表しています。問題によっては、複数の項目に含まれる場合があります。

国語科では、令和元年度と比較してやや低下し、全国平均をやや下回りました。算数科では、令和元年度と比較してほぼ同じですが、全国平均をやや下回っています。

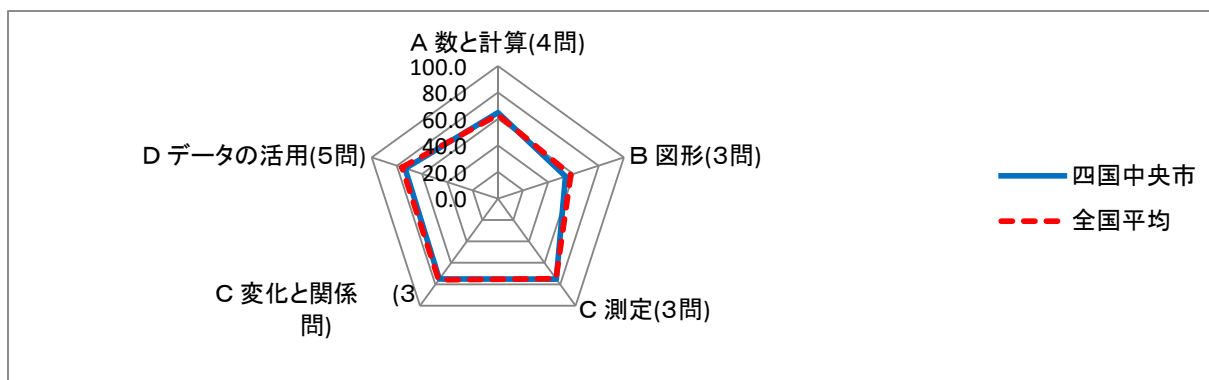
国語



【国語分析】

「書くこと」の領域で全国平均を上回っていますが、他の領域は全国平均をやや下回りました。「話すこと・聞くこと」の領域はやや全国平均を下回るものの、「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの内容を考える問題」の正答率が高く、各校でのグループ発表等の取組が結果に結びついてきているようです。「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」問題に課題がありました。引き続き漢字の書き取りなどの充実させていく取組を続け、GIGAスクール構想で整備された1人1台端末を有効活用し、「個別最適化された学び」を実現し、基礎的・基本的な学力定着への取組を充実させていきます。

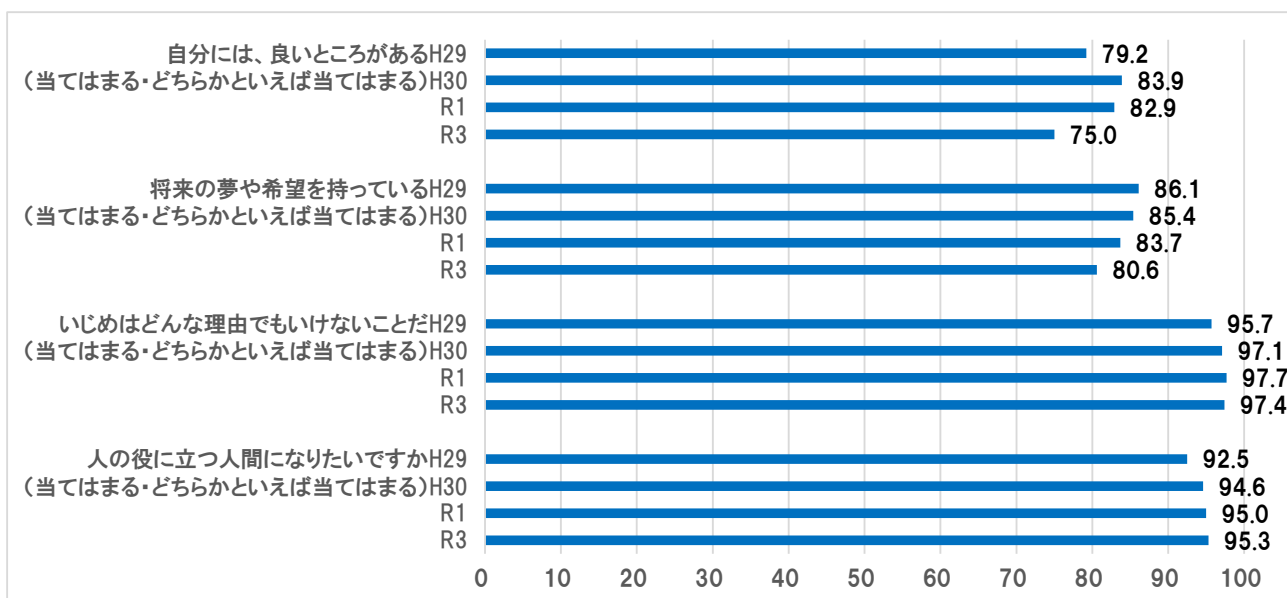
算数



【算数分析】

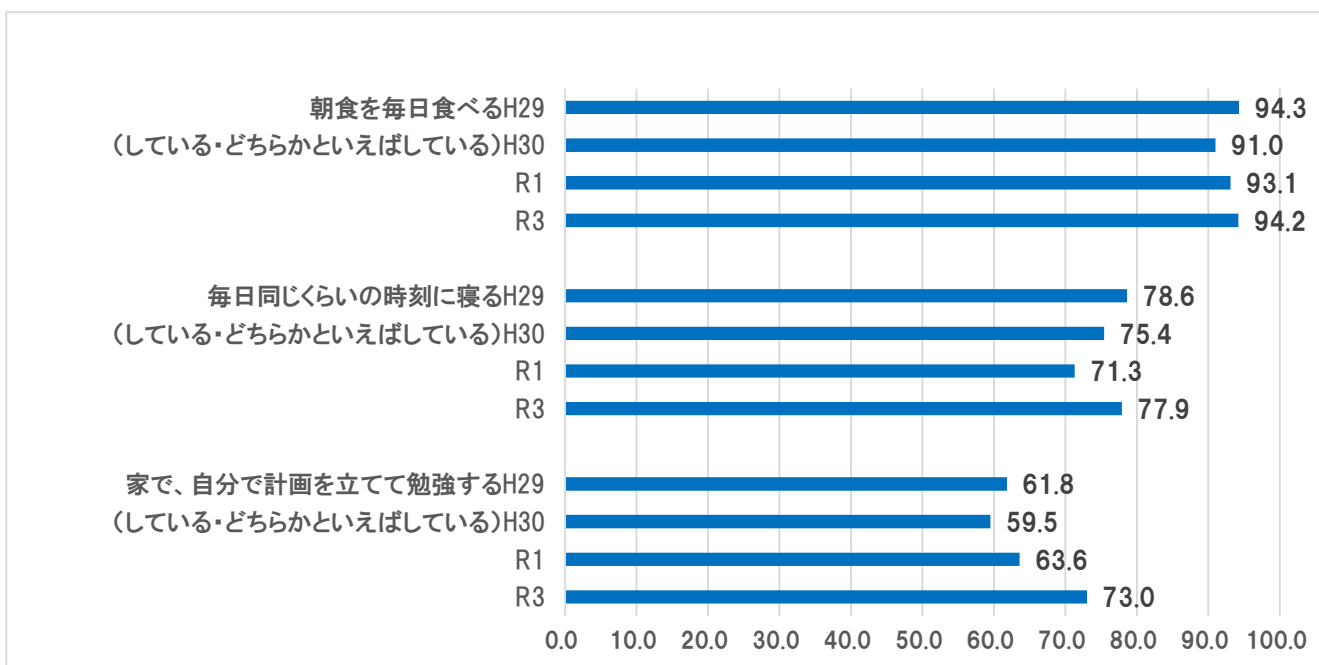
「数と計算」、「測定」の領域の正答率は全国平均を上回り、良い結果となりました。計算問題については、ある程度力が付いてきています。各校での、朝ドリルなどの取組の効果が表れているようです。「図形」領域の「二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求めかたを説明する問題」に課題がありました。基礎的な力を継続して付けて行くとともに、なぜそうなるのかを説明する場面などをさらに多く取り入れていきます。また、1人1台端末やドリル型学習用ソフトを有効活用し、個々の計算スキルの向上へ向けた取組を充実させていきます。

2 心の状況



※質問数が減って、令和元年度まで掲載していた「学校の決まりを守っている」の項目は無くなりましたので「人の役に立つ人間になりたいですか」に変更しています。

3 生活習慣の状況



【分析】

心の状況については、全体的には例年通り全国平均と比較して良い結果になっていますが、「自分には良いところがある」が令和元年度より7ポイント以上、「将来の夢や目標をもっている」も3ポイント減少しています。全国平均値も同じ結果で、コロナ禍において集団での教育活動が制限を受ける中で、子どもたちへの「自己有用感、自己肯定感」に影響が及んでいるように感じます。十分な感染対策を行い安心・安全な教育環境の実現に努めてまいります。

生活習慣の状況では、上記に示した3項目とも御家庭のご協力もありそれぞれ大きく改善しています。特に「家で、自分で計画を立てて勉強する」は、令和元年度より10ポイント程度向上しています。コロナ禍で家庭で過ごす時間が増えた影響も考えられますが、全国平均と比べると、まだまだ改善が必要な項目です。通信機器の使い方などについて、ご家庭の協力を得ながら各校の実態に合わせて、1人1台端末の平日の持ち帰りなどの取組を通して、自主的に家庭学習に取り組む児童の育成に努めてまいります。